砂交りに美敷く光りありて、明き土地なりけり、長峽の丘山四方に因りて山脈なし如長島、

〔日本書紀七景行〕十二年九月、天皇遂幸筑紫、到豐前國長峽縣、興行宮而居、故號其處曰京也、

〔日本靈異記上〕非理奪他物爲惡行受惡報示奇事緣第卅

膳臣廣國者、豐前國宮子郡少領也、藤原宮御宇天皇之代、慶雲二年乙巳秋九月十五日庚申、廣國忽死、逕之三日戊日申時、更甦之而語之曰、使有二人、一頂髮擧東一小子也、○略下

〔續日本紀十三聖武〕天平十二年九月戊申、大將軍東人言、殺獲賊徒豐前國京都郡鎮長太宰史生從八位上小長谷常人、己酉、大將軍東人等言、豐前國京都郡大領外從七位上楮田勢麻呂、將兵五百騎○中略來歸官軍、

〔大內家壁書〕從山口於御分國中行程日數事○略中

豐前國○略中　京都郡四日、請文十二日、○略中

寛正二年六月廿九日　備中守奉秀明○略下

〔豐前國志三上〕仲津郡の名義

仲津郡

此郡の名義は、豐後風土紀に、豐前國仲津郡中臣村に云々、和名抄仲津郡、こゝは國の中央に有故の稱にして、三栗の中津抔よめり、郡內に國分もあり、諸方へ街道の地にして、西は京都田川の二郡に堺ひ、北は海、東は築城郡下毛郡に隣る、分內も廣く、打開きたる土地なり、

〔續日本紀十三聖武〕天平十二年九月己酉、大將軍東人等言、豐前國○略中仲津郡擬少領无位膳東人兵八十人、○略中來歸官軍、

〔大內家壁書〕從山口於御分國中行程日數事○略中

豐前國○略中　仲津郡四日、請文十三日、○略中

寛正二年六月廿九日　備中守奉秀明○略下